

年決算及び 2020 年度予算案補足説明

1. 2019 年度決算

(収入)

収入合計は 4,620,991 円と予算比マイナス 450,409 円となりました。これは、主として年会費収入、寄付金収入及び名刺広告収入が想定よりも大きく減少したことによります。なお、雑収入の減少につきましては、とくに忘年パーティーの会場を当初予定していた大学施設から民間の会場に移さざるを得なかったことにより、開催コストが上昇し残余金が大幅に縮小したことによります。他方、終身会費につきましては、年会費会員の方々の多くが終身会員に移行したことなどにより、前年度からの繰越を含め合計 1,972,000 円を計上し、前年度からの新会計方針に従ってその 20%を収入として計上した結果、予算を相当上回る実績となりました。

(支出)

支出合計は 4,936,814 円と、予算比マイナス 106,186 円となりました。ほぼ全項目について予算比マイナスとなりましたが、人件費のみが予算比プラス 228,880 円と、大きく予算超過となりました。これは、前年度から期末における事務局員への給与の支払い時期を変更したことに伴い修正を施すところ、過誤により、予算が給与 1 ヶ月分過少計上されていたことによるものであります。お詫びするとともに、構造的なものではないことをお断りさせていただきます。

(繰越金)

以上の結果、2019 年度決算は、差引 315,823 の赤字となり、(一般会計の)繰越金は 1,416,448 円に減少しました。一方、終身会費及び次年度以降会費収入(会費の前払い)の残高は、合計で 1,659,600 円となりました。前年度は、決算表の摘要欄に記載のとおり、終身会費 672,000 円、次年度以降会費収入 136,000 円の合計 808,000 円でありましたので、2 倍以上に増加したことになります。両者を合計した繰越金額は、3,076,048 円となり、多少なりとも今後の財政基盤の強化につながったと考えられます。

(100 周年記念寄付金)

経済学部創設 100 周年記念に係る寄付金は、当期末までに、2,023,000 円となりました。同金額から寄付に係る振込手数料等を差し引いた金額は、1,991,231 円となっております。

(学生支援金)

学生支援金の収支は、184,018 円の支出超過となり、次年度への繰越金は、1,489,810 円となりました。項目の中でQRコード・メルマガ運用費が新たな費用として計上されておりますが、これは、現役学生や若手卒業生を同窓会へ誘導するための有力な手段として、当期より設けた仕組みに係る費用であります。2020 年度につきましても、引続き活動を継続する予定にしております。

(その他繰越金)

平和記念碑建立 20 周年記念事業及び同窓会創立 25 周年記念事業に係る繰越金は、各々152,928 円及び 267,918 円と、前年度からほとんど変化はありません。

なお、参考までに、過去 5 年間の収支の推移を参考資料に添付しておりますが、経費削減に向けた努力が数字に表れていることをご理解いただければ幸いです。

以上

2. 2020 年度予算案

(収入)

2020 年度（今年度）の収入合計は 4,258,000 円を見込み、前年度実績比 36 万円強の減収を想定します。年会費の納入者は毎年減少しており、今年度も 50 名減を覚悟しております。未納入者に対しては、事務局長名で意を尽くした納入要請書面を送付し、前年度も 2 度にわたり送付した結果、納入率 80% 以上を達成してはおりますが、それでもなお予算達成にまでは至っておりません。今年度も同様の努力を継続して参ります。他方、終身会費につきましては年会費会員からの移行者が増加していることは事実ではありますが、やや保守的に見積もっております。会報紙面への名刺広告は、掲載に賛同して下さる会員の高齢化等により、このところ件数の減少が顕著になっておりますことから、今年度につきましても、減額しました。校友会活動補助金は、総会後のオレンジの集いへの参加人数に応じて校友会から支給される補助金ですが、今年度はすでに同集いの中止を決めておりますことから、支給額をゼロとしております。最後に、雑費に関しましては、オレンジの集いの中止、また忘年パーティーにつきましても、直前の 100 周年記念行事（パーティー）に相当数の会員が参加することが予想されますので、開催を見合わせる方向にあります。したがって、残余金は生じないことを想定しております。

(支出)

今年度の支出合計は、4,305,000 円を見込み、前年度実績比 60 万円強の減少を目指すこととしております。人件費は、事務局事務員 2 名の給与等ですが、今年度は事務局開室時間を 1 時間短縮することから、約 20 万円減少する計算になります。ただし、事務職員の交代に伴い、事務引継期間として 4 月及び 5 月は 3 人体制としたことから 10 万円増加します。それらの差引の結果、人件費は約 10 万円減としました。事務用備品費については、経理・会員管理システムの廃棄により 54,000 円がなくなること、また、前年度のパソコン購入費用 6 万円が今年度は発生しないことから、若干の余裕をみて約 10 万円減としております。会報発行費については、今後の会報そのものの見直しの推移にもよりますが、名刺広告収入の減少が避けられそうにないことから発行費用も抑えざるを得ないとの考えに立った結果であります。賃借費は、コピー機の当初リース期間の満了がフルに寄与し大幅減となっております。

(繰越金)

以上の結果、今年度の収支は 47,000 円の赤字を見込みます。赤字を避けるための化粧も可能ですが、ありのままの数字とさせていただきます。この赤字分を反映して、一般会計の繰越金につきましては、1,369,448 円に減少します。ただし、終身会費及び次年度以降会費収入で構成する繰越金は合計で 1,959,600 円を見込んでおり、同窓会の最終的な財政余力は、3,329,048 円となり、少なくとも数年は持ちこたえられる水準にあるといえます。

(学生支援金)

収入は寄付金で成り立っていることから、予算案は作成しておりませんが、経済学部創設 100 周年に係る寄付金が 200 万円を超えることは確実であり、同窓会による記念誌の発行や大学の記念行事等への協賛に要する費用を考慮に入れても、かなりの余剰が出ると予想しております。寄付金募集に際して、余剰はすべて学生支援に繰り入れる旨を約しておりますので、学生支援金に係る財政状況は、しばらくは安定的に推移するものと思われれます。

以上